

インドネシア半乾燥地域における生存戦略: 東ヌサ・テンガラ州サブ・ライジュア県の社会と環境

廣瀬 崇幹 氏

(京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科)



インドネシアの東部・村落部は学術研究からも未解明の課題が多い地域である。東ヌサ・テンガラ州サブ・ライジュア県の村落地域は、パルミラヤシ (*Borassus flabellifer*) という特定の植物に依存しているとされてきたが、こうした地域在来の生業は、援助米などが食生活に入っていること、海藻養殖業によって現金収入が増大したことから、1990年代以降変化している。

そこで、現在の半乾燥地域における生業を含めた生存戦略に着目し、人類生態学的な調査を行った。在来農耕やヤシ糖採取という生業のあり方、文化的・経済的価値のある家畜飼育のあり方、外部社会とのかかわり方、そして変化しつつある社会環境・自然環境の中での今後の展望について議論した。

日時

2016年12月16日(金)

16:00~18:00

場所

京都大学総合研究2号館4階AA447



＜お問い合わせ先＞

小坂：京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科
kosaka[at]asafas.kyoto-u.ac.jp
柳澤：京都大学地域研究統合情報センター
masa[at]cias.kyoto-u.ac.jp